



シリーズ

「つかう」「つくる」「まもる」で森林資源の持続可能な活用を目指す

大成建設株式会社

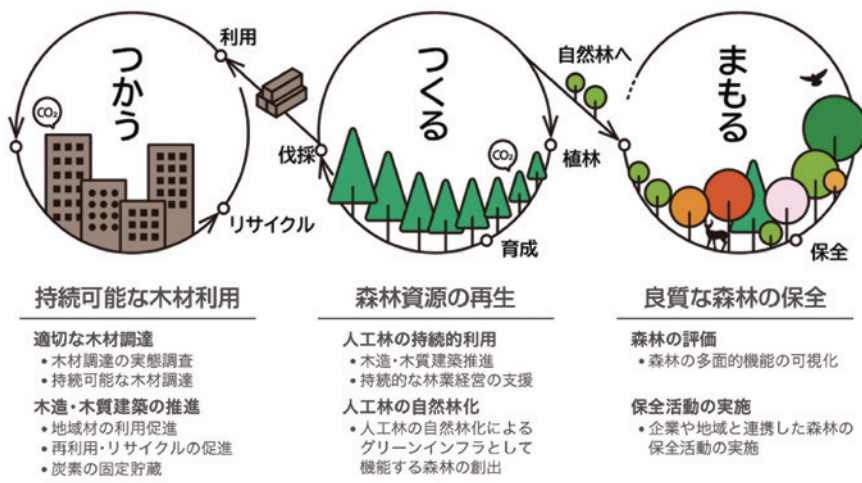


協定締結の検討経緯

大成建設は、グループ長期環境目標「TAISEI Green Target 2050」により「森林破壊ゼロ」を前提とした木材調達により森林資源・森林環境への負の影響を最小化」および「保全と再生に取り組み、森林資源・森林環境への正の影響を最大化」することで森林資源・森林環境の課題解決を目指すことを定めています。

将来にわたって森林の恵みを享受できるように、適切な木材調達と建物の木造・木質化の推進により持続可能な木材利用を進める「つかう」、人工林の持続的利用や自然林化で森林資源を再生する「つくる」、森林の評価や保全活動により良質な森林を保全する「まもる」に取り組んでいます。

これらの取組を国と連携して加速させるため、2024年3月に、農林水産省、環境省と、大成建設およびグループ3社（大成エーレック、大成建設ハウジング、佐藤秀）で建築物木材利用促進協定を締結しました。



大成建設が取り組む「つかう」「つくる」「まもる」



協定に基づく構想の概要

協定では、建築物における木材利用の促進を通じてカーボンニュートラル・ネイチャーポジティブに貢献し、持続可能な森林資源・森林環境の活用と保全を推進することを目指し、次の8つに取り組んでいます。

1. 企画・設計・施工において木材利用促進に努め、カーボンニュートラルに貢献
2. 令和9年度までの5年間で14,000㎡の国産木材使用目標を設定
3. 令和9年度に新築物件の70%程度のZEB化・ZEH化目標を設定
4. 既存建築物を改修工事でZEB化する「グリーン・リニューアブルZEB」の提案を推進
5. 森林破壊ゼロを前提とし、木材調達の実態調査や合法木材の利用促進等により持続可能な木材活用を推進
6. 地域産木材の利用や、再利用・リサイクルの促進を通じて木造・木質建築を推進
7. 生物多様性や水源涵養など森林の多面的機能の保全・向上活動を、地域社会と連携して実施



協定に基づく取組

8. 良質な森林の保全・創出・再生の取り組みと、ネイチャーポジティブに貢献する技術・サービスの開発・普及

鉄骨や鉄筋コンクリートを用いた建築物には統一して使用される明確な定義があるのに対し、木質建築についてはそうした明確な定義が定まっていませんでした。そのため「木質材料を構造材や仕上げ材として使用した建築物」という表現だけでは捉え方や想起されるイメージにばらつきが生じ、コスト高のイメージが先行されやすく、お客様と設計者の間での合意形成において支障となっていました。

そこで、木質化範囲のイメージ共有を図るべく、木材使用量、構造の特徴、環境保全への貢献度などを指標とした分類表『ビルモクラインナップ』を独自に構築しました。これにより木質建築に対する認識のばらつきを解消し、建築プロジェクトの初期段階から木質建築の導入を検討しているお客様と設計者の間でのスムーズな合意形成が可能となりました。

あなたの理想と予算に合わせて。大成建設が提供する木質建築の7つのスタイル

ビルモクラインナップ

軽い。強い。燃えにくい。おまけに、大気中のCO₂まで吸収して炭素固定もしてくれる。木材はいま、そんな魔法のマテリアルに進化しています。その可能性で、なにができるか。都市を、暮らしを、どこまで変えていけるのか。建築の木質化を考えるなら、「ビルモクラインナップ」からはじめましょう。

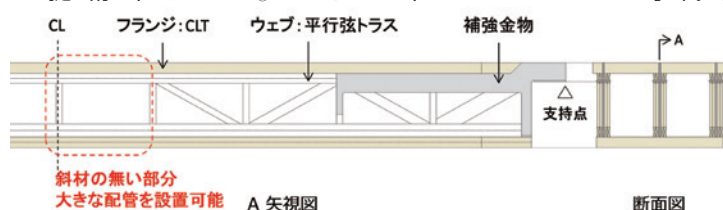
木質化範囲		木質ハイブリッドのオールラウンダータイプ		鉄骨/RC造のコンサバタイプ			
フルモク	ホボモク	ナカモク	カオモク	ウエモク	タシモク	ハダモク	非モク
木質構造 W	木質構造 W+S/RC	混構造 S/RC+W	混構造 S/RC+W	混構造 S/RC+W	混構造 S/RC+W(ハイブリッド)	鉄骨/RC造 S/RC+W仕上	鉄骨/RC造 S/RC
木材使用量 (m ³)	4,000	2,800~3,200	2,000	500~1,500	240~320	80	0
木材使用率 [※]	0.50	0.35~0.40	0.25	0.06~0.20	0.03~0.04	0.01	0
炭素貯蔵量 (t-CO ₂)	2,400	1,700~1,950	1,200	300~900	150~200	50	0

※木材使用率：木部体積(m³)/延床面積(m²)

今後の抱負

木質建築の一段の進化を目指し、大型木造床組ユニット「T-WOOD® Truss Floor」を開発しました。このユニットは、入手が容易な一般流通材の特性を活かしながら長さ12mの大スパン構造を実現するなど高い構造性能と施工性を両立させるもので、非住宅分野への木質化を加速させる技術です。2026年にオープン予定の大成建設グループ次世代技術研究所埼玉県幸手市の管理研究棟で4階の床組に適用していただきます。

建築物の木質化を求めるお客様のニーズに対して、「T-WOOD® Truss Floor」を始めとした当社の持つ木質建築の技術を積極的に提案し、木材を



断面図



T-WOOD® Truss Floor

当社の木質建築技術のご紹介

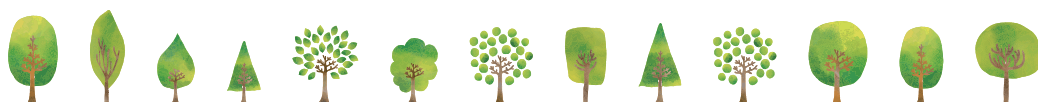
協定制度への期待

活用した環境配慮型建築物の普及を通じて、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に貢献してまいります。

木材利用を進めるためには、流通、コスト、トレーサビリティなど様々な課題が存在します。課題を解決するには、目標を同じくする他の協定締結企業や関係官庁との連携が不可欠です。協定締結者の事例発表会や交流会などを通じて協働の輪を広げていくために、



大成建設グループ次世代技術研究所完成予想図(イメージ) 全景、管理研究棟、管理研究棟内部



✈️ トルコ最大の都市 イスタンブール

経済・文化・歴史の中心地であるイスタンブールは、旧市街がユネスコの世界遺産として登録され、訪れる観光客はなんと



日本とトルコの絆と経済分野の 協力強化に向けて

年間2,000万人弱（トルコ全体では5,000万人強）。歴史的な建造物の他、アジアとヨーロッパを隔てるボスポラス海峡の美しい景色、世界三大料理の一つに数えられるトルコ料理、バザールでのショッピングなど、豊富な観光資源を持つ魅力たっぷりの街です。猫の楽園としても知られ、街路だけでなくレストランや駅の改札、モスクの中など至る所でくつろいでおり、見ているだけで癒やされます。



イスタンブールの町並み

✈️ 日本とトルコの友好の歴史

トルコは親日国というイメージを持たれている方も多いのではないだろうか。日本とトルコの外交関係は1924年に樹立され、外交関係樹立100周年を迎えた2024年は、200を超える記念行事がトルコで開催され、12月には秋篠宮皇嗣同妃両殿下が公式訪問されるなど、イスタンブール総領事館としても多忙な一年を過ごしました。

両国の友好の歴史は19世紀後半まで遡ります。オスマン・トルコ皇帝の使節団が軍艦エルトゥールル号と共に派遣され、明治



市内の猫

在イスタンブール日本国総領事館 領事

町田 豊



天皇に拝謁した帰路、時は1890年、現在の和歌山県東牟婁郡串本町にある紀伊大島付近で台風に遭遇、座礁し、残念ながら587名が犠牲となりました。そんな中、串本町の住民の必死の協力で69人が救出され、日本海軍の巡洋艦でトルコへ送還し、義捐金も多数寄せられました。

物語はこれで終わりません。エルトゥールル号事件から95年後の1985年、イラン・イラク戦争中に、イラクがイラン領空の全航空機を攻撃対象にすると発表、これによりテヘラン在留の日本人が孤立しました。トルコ政府は日本の要請に応じてトルコ航空機2機をイランに派遣、イラクの攻撃設定期限間際で、200名以上の日本人が無事に脱出しました。脱出後、トルコ航空が日本人を救出してくれた理由を記者に問われた当時の駐日トルコ大使は、「私たちはエルトゥールル号の借りを返しただけです」と答えたそうです。この2つの出来事は、両国の友好の歴史を象徴するものとして語り継がれ、2015年には日土合作の映画が公開されました。

また、現代においても、地震国という共通点を持つ日本とトルコは、大地震の際には助け合ってきました。

✈️ 両国の経済連携強化と日本食の普及

私はイスタンブール総領事館の経済班として、日本企業のトルコでのビジネス支援や、両国の企業連携、トルコを超えて中央アジアやアフリカなど第三国での共同プロジェクトの促進などに取り組んでいます。中でも力を入れているのは日本食の普及です。人口1,600万人が住むイスタンブールほどの大都市であれば大抵の日本食が手に入る、と思われる方もいるかもしれませんが（私も赴任前はそう思っていました）



両国企業の協業による第三国連携等について意見交換

した。しかしながら、食品輸入に関する厳しい法規制などを背景に、日本食はまだ普及しておらず、一般消費者の認知度も低い状況にあります。そんな中でも、SNSを使った情報発信や、企業とのコラボイベント、生産者と輸入業者のネット



日本企業による式典への出席



法被を着て日本食をPR



同僚と日本食レストラン取材してSNSで広報

ワーク構築支援や通関トラブルの解決など、自身で考えた新しい企画を提案しながら、日本食普及のために日々楽しく業務に取り組んでいます。

トルコ国内では高インフレや政治的な混乱、自然災害などがある一方で、周辺国ではロシア・ウクライナ戦争のほか、シリアやパレスチナ自治区を巡る問題など、日々めまぐるしく変化していますが、先人たちが築いた歴史的な友好関係を土台に、日本とトルコの経済連携強化の一助となるよう努めてまいります。

✈️ トルコの森林事情

トルコの森林事情に目を向けますと、森林率は約3割、主に黒海、エーゲ海、地中海など沿岸地域に存在しており、木材とし



トルコで寿司と言えば洋風の巻き寿司が主流（味はおいしいです）



最近ではイスタンブール市内にラーメン店も出現



コンビニではおにぎりが売られるように

ではアカマツやカラマツが多く利用されています。農業大国であるトルコは、木材自給率もほぼ100%を達成しており、森林の99%が国有林であることが日本とは大きく異なりますが、山間部の高齢化や労働力の減少は日本と共通の課題です。

森林を巡る近年のトレンドは森林火災です。今年の夏も多くの場所で火災が発生し、熱波や強風の影響で拡大、多くの死傷者が発生するなど大きなニュースになりました。森林火災は養蜂や畜産をはじめとする農林業、観光業など地域経済に多大な影響を及ぼすため、政府は取組を強化しており、防火用水池や監視塔の整備の他、無人航空機（UAV）や人工知能（AI）の活用を積極的に推進しています。

✈️ 日本の木と言えば桜

イスタンブールには、日本の総合商社である双日などが参画し、官民連携で建設された大規模総合病院があります。その名も「バシヤクシエヒル松と桜都市病院」。トルコを代表する松、そして日本を象徴する桜にちなんで名付けられました。



病院に直結する地下鉄構内にある松と桜のオブジェ

国有林野 事業の 取組

地域と連携した保全活動による ミズバショウ群生地の再生 ～山中山希少個体群保護林～

はじめに

中部森林管理局飛騨森林管理署では、岐阜県高山市庄川町に位置する山中山国有林を管理しています。今回は、地域の関係者と連携して、ミズバショウ群生地の再生に取り組んでいる事例をご紹介します。

山中山国有林の自然環境

山中山国有林は、標高約1,350mの山岳地帯に位置し、スギ・ヒノキ・カラマツからなる人工林の他に、ブナやミズナラ、トチノキなどの広葉樹の天然林が成立する自然豊かな森林です。さらに、林内には、岐阜県の天然記念物に指定されているミズバショウの群生地があり、春になると白く美しい花が一面に咲き誇り、訪れる人々の目を楽しませています。

ミズバショウの見頃は4月中旬から5月上旬で、整備された遊歩道を歩きながら、湿原の中で咲く花々を間近で観賞することができます。



ミズバショウ



ミズバショウ群生地の保全活動

山中山国有林の群生地は、日本におけるミズバショウの分布南限の一つとされており、ミズバショウの密度が高いことから、昭和51年に岐阜県の自然環境保全地域特別地区に指定されました。以降、自然環境の保全が進められてきましたが、シカやイノ

中部森林管理局 飛騨森林管理署

管内概要

所在地 岐阜県高山市西之一色町三丁目747-3

区域面積 332,678ha
うち森林面積 308,668ha
うち国有林面積 116,948ha

関係自治体 2市1村(飛騨市、高山市、大野郡白川村)

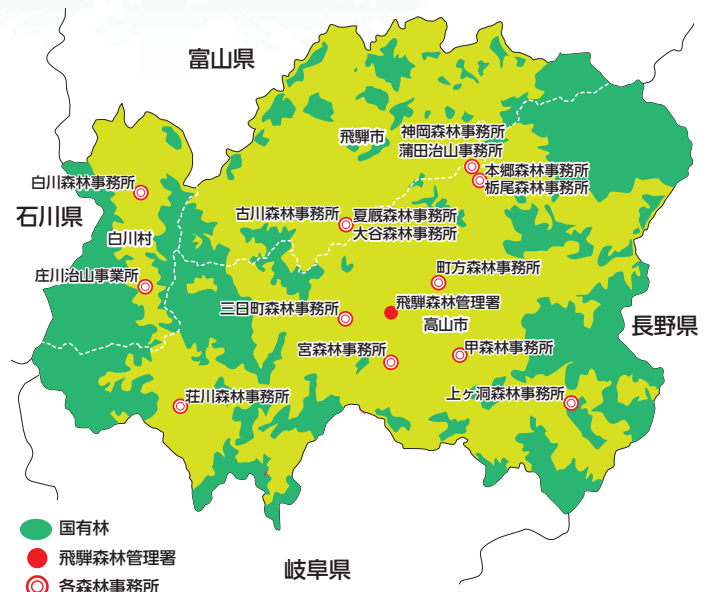
飛騨森林管理署は、東に「日本の屋根」ともいわれる飛騨山脈(乗鞍岳、御嶽山等)、西に白山などの3千m級の山々に囲まれた宮・庄川流域の2市1村に広がる国有林約117,000haの森林を管理しています。

管内の森林は、ブナやミズナラ等の天然林が56%、カラマツ・スギ・ヒノキ等の人工林が31%、その他山岳地帯等が13%を占めています。

この地域の森林のうち、99%が保安林に指定されており、土砂流出防止等の国土保全や、水源涵養による水資源の貯留等、重要な公益的機能を果たしています。これらの森林は、日本海側の石川県・富山県、太平洋側の岐阜県・愛知県の主要河川の源流地域に位置しています。

また、飛騨山脈、御嶽山、白山などの山岳地域は、貴重な動植物の生息地域であるとともに、観光や登山などの森林レクリエーションや、高地トレーニングの場としても広く利用されています。

さらに、世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」で有名な「白川村」には、霊峰白山の山岳地帯に崩壊地や荒廃渓流が点在しており、村の森林の半分を占める国有林において溪間工や山腹工事などの治山事業に取り組んでいます。



シシの生息域の拡大により、平成18年頃からミズバショウの葉や根に食害が確認されるようになりました。平成22年頃には、深刻な食害により群生地のみズバショウは激減していきました。



深刻な食害を受けたミズバショウ

この課題に対し、平成23年から岐阜大学、高山市、地元住民、飛騨森林管理署の4者が連携し、群生地へのシカやイノシシの侵入を防ぐ電気柵の設置を継続的に実施しています。さらに、平成30年には、飛騨森林管理署が、南限に分布する貴重なミズバショウ群落を保護・管理するために、群生地を「希少個体群保護林」に設定しました。これにより、多様な湿地植物が共生する豊かな生態系の保全が一層強化されています。



山中峠の湿原での電気柵設置作業



林内に設置した電気柵

こうした地域と関係機関が連携した継続的な取組や保全活動の結果、柵内のミズバショウの個体数は、増加傾向で推移し、現在では再び多くの花が咲く場所となっています。



地域ぐるみの保護活動により回復したミズバショウ

研究と環境教育の推進

このほか、被害を受けたミズバショウ群生地の再生に向けて、岐阜大学応用生物科学部を中心に、生育状況の調査や人工移植の研究が進められています。また、地元の庄川小学校では、種子の採取・育成・植え付けなどを通じた環境教育が行われています。



地元の小学生がミズバショウを育成

令和6年には、種から育てて当地に移植したミズバショウの開花が初めて確認され、成果が着実に現れ始めています。

おわりに

山中山のミズバショウ群生地は、本来の自然が有する美しさと、多くの関係者の努力が調和して保たれている貴重な場所です。今後とも、地域の方々と連携しながら、希少な自然環境の維持、保護・管理の取組を進めてまいります。

春の訪れとともに咲き誇るミズバショウの花々や、美しい風景を見に、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。



みやぎ 2025 全国育樹祭

次世代へ みどりのかけ橋 森づくり

全国育樹祭とは

健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるため、昭和52年から毎年秋に、開催都道府県と(公社)国土緑化推進機構の共催により開催。全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹運動のシンボリック行事のほか、皇族殿下によるおことばや各種表彰等の式典行事を実施。

10月4日(土)から5日(日)にかけて、「次世代へ みどりのかけ橋 森づくり」をテーマに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席の下、第48回全国育樹祭が宮城県白石市「国立花山青少年自然の家南蔵王野営場」及び利府町「セキスイハイムスーパーアリーナ」で開催されました。

4日のお手入れ行事では、代表参加者として庄子農林水産大臣政務官等による育樹活動(施肥)が行われ、オープニングアトラクションでは宮城県出身の奏者による津軽三味線の演奏が披露されました。その後、平成9年の第48回全国植樹祭で当時の天皇皇后両陛下がお手植えされたブナの枝払いとオオヤマザクラへの施肥が秋篠宮皇嗣同妃両殿下により行われました。

5日の式典行事では、皇嗣殿下から「震災の教訓が広く伝承され、森林を守り育てていく人々の想いがここ宮城の地から全国に広がっていくことを祈念します。」とおことばがありました。また、緑化推進や森林づくり活動に

功績のあった方々への表彰と、笹川農林水産副大臣の立会いの下、全国から選ばれた緑の少年団への苗木の贈呈が行われました。

メインテーマアトラクション「森と海と人の物語」では、海岸防災林や宮城県の森林・林業の歴史に触れながら、森と海を守る人々の活動を紹介。また、東日本大震災を乗り越え、今と未来をつないでいく人々の想いを、出演された俳優の前原滉さんや、私立常盤木学園高等学校音楽科、利府町立利府西中学校の皆さんの歌で表現されました。

最後に(公社)国土緑化推進機構の濱田理事長による「大会宣言」等が行われ、式典は幕を閉じました。

次回、第49回全国育樹祭は「育てて使おう 地球に優しい 緑の資源」を大会テーマに、令和8年秋季に和歌山県で開催される予定です。



緑の少年団へお声がけされる秋篠宮皇嗣同妃両殿下



育樹活動を行う庄子農林水産大臣政務官



おことばを述べられる秋篠宮皇嗣殿下



お手入れをされる秋篠宮皇嗣殿下



表彰を行う笹川農林水産副大臣(左から3人目)





「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)



「第48回全国育樹祭みやぎ2025」に参加し、改めて森を守り育てることの大切さを感じました。植えて終わりではなく、植えた後に「人の手で森を育てていくこと」に焦点が当てられており、秋篠宮皇嗣同妃殿下による枝打ち、施肥などが行われました。私は式典会場にて来場された方々に「緑の募金」への協力を呼びかけました。募

未来の森を育てる

みどりの大使が行く!



2025

ミス日本
みどりの大使

佐塚 こころ



育樹祭記念行事のみやぎ2025 森林・林業・環境機械展示実演会では、最新の技術に触れ、林業の現場が時代とともに大きく進化していることを目の当たりにしました。広い会場には、伐採や集材に使う大型

最新技術 森を育てる現場を支える

金を通じて、森林整備や環境保全に関心を持ってもらったり木の製品を身近で使わせていただくことも、また、「森を育てる」一つの形なのだと思います。式典会場には足を止めて募金してくださる方がたくさんいらっしゃり、「緑を未来につなげていく」想いが多くの人の中に確かにあることを実感しました。たくさんの方の小さな行動が森を支えている。このことを改めて感じられた時間でした。森を育てることは自分たちの世代だけでなく、自然と人とが互いに長く寄り添っていく継続的な取組であり、それを多くの人と共有できたことがとても嬉しかったです。



の機械から、狭い場所でも使いやすい小型タイプまで、多様な林業機械が展示されており、進化した未来の林業を体感しました。実際に動く機械の音や迫力には圧倒されましたが、それ以上に驚いたのは、どの機械も人が動きやすいように工夫されていたことです。操縦室にはエアコンが搭載されていたり、シートの形状や操作レバーの位置には長時間使っても疲れにくい配慮があったりと、作業者の快適さや安全性を大



切にしていることが伝わってきました。特に印象に残った出展は生分解性チェーンオイルです。これまでのチェーンソーではどうしてもオイルが周辺に残ってしまい、森を汚染する1要因になっていたと伺いました。それを改善し、自然へ還るオイルの登場は「森を育てる」という面から無理にならなく感じました。効率化を進めながらも自然への思いやりを忘れない姿勢に、深い感銘を受けました。

まだまだ林業は「きつい仕事」と認識される方も多いと思いますが、快適な仕事環境が整っているイメージと、自然環境に優しい林業というイメージが広がれば人と自然をつなぐ未来の産業になると感じます。



林業信用保証で



林業・木材産業を営む
みなさまの資金調達を
サポートします！



場所：静岡県伊豆市

独立行政法人農林漁業信用基金

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階

○保証制度や出資金に関するお問い合わせ
林業信用保証管理部 TEL:03-3434-7825

○保証の申込みやご利用に関するお問い合わせ
林業信用保証業務部 TEL:03-3434-7826、7827

詳しくはこちら

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>

